

学 会 録 事

1. 国際藻類学会招致について

この件は先の総会で話し合われましたが、前号の録事(総会報告)に掲載し損ねましたので改めて報告いたします。渡辺評議員(国立環境研)より現在の日本の国際的立場を考えるとそろそろ国際藻類学会の大会を招致する時期に来ているのではないかという発言があり、大筋で合意された。ただ、実際に招致となるとある程度具体的なプロポーザルが必要であるので有志によるワーキンググループなどを作ってそのあたりを検討する必要がある旨の指摘がなされた。ワーキンググループの件については会長を中心に具体的に検討していくことになった。

2. 選挙結果について

1997年1月1日～1998年12月31日を任期とする次期会長・評議員の選挙が来る7月26日から8月27日の期間おこなわれた。8月30日に、本会会員三上日出夫、中村英士両氏の立ち会いのもと北海道大学理学部会議室において開票がおこなわれた。その結果、以下のように決定いたしましたのでお知らせいたします。

【会長選挙】 石川依久子(当選)・堀 輝三(次点)

【評議員選挙】

北海道地区(2) 市村輝宜・増田道夫(当選)・堀口健雄(次点)

東北地区(1) 月舘潤一(当選)・日野修次(次点)

関東地区(3) 井上 勲・吉崎 誠・渡辺 信(当選)・堀 輝三(次点)

東京地区(2) 有賀祐勝・野崎久義(当選)・福代康夫(次点)

中部地区(3) 白岩善博・前川行幸・藤田善彦(当選)・嵯峨直恒(次点)

近畿地区(2) 榎本幸人・川井浩史(当選)・中原紘之(次点)

中国・四国地区(2) 奥田一雄・中野武登(当選)・大野正夫(次点)

九州地区(2) 藤田雄二・川口栄男(当選)・右田清治(次点)

3. 科学研究費補助金時限つき細目「自然史科学」の審査員の推薦について

自然史連合より表記について学会から一名推薦するようにとの要請があった。締切までの日時が非常に短

かったため、今回は会長が一名を推薦し、持ち廻り評議員会で了承を得るという方法を採用し、会員一名を推薦した。今回は初めてのケースであり、しかも時間も限られていたために上記のような方法を採用したが、今後はこのような場合に備えてのルール作りが必要であろう。

4. 次期編集長・編集委員長選出について

「Phycological Research」の次期編集長および「藻類」の次期編集委員長の選出が編集委員会内規に基づいておこなわれた。前会長・現会長・新会長・現英文誌編集長・現和文誌編集委員長の5名よりなる役員会が9月に開催され(持ち廻りによる)、新英文誌編集長および新和文誌編集委員長の候補が決定した。本人の内諾を受けた上で、この結果を持ち廻り評議員会にかけ、了承を受けた。次期英文誌編集長・和文誌編集委員長は次の通り。なお任期は1997年1月1日～1999年12月31日までの3年間。次期Phycological Research編集長 川井浩史氏、「藻類」編集委員長 堀口健雄氏

5. 「アジア地域の微細藻類研究ネットワークに関するシンポジウム」の共催について

表記について渡辺評議員(国立環境研)より、このシンポジウムを学会として共催できないかとの打診があった。この件は持ち廻り評議員会にかけた承された。プロシーディングスなどに関しては今後論議の予定。詳細は本号の関係記事を参照されたい。

6. 秋季シンポジウムの開催

秋季シンポジウムが日本植物学会第60回大会(福岡)の前日(10月9日)に九州大学六本松キャンパスにておこなわれた。シンポジウムでは次の2題の講演がおこなわれた。(1) 礁池におけるモズク類2種の生態と養殖(当真 武氏・沖繩県林水産部)、(2) 長崎県下における磯焼けとその回復のための技術的問題(四井敏雄氏・長崎県水産試験場)座長は共に奥田武男氏。シンポジウムの後に懇親会がおこなわれた。秋季シンポジウムの開催に当たっては、九州大学農学部の川口栄男氏にご尽力いただいた。厚くお礼申し上げる。

シンポジウム・懇親会出席者：鯨坂哲朗，有賀祐勝，飯間雅文，石川依久子，岩倉祐二，植木慶，太田雅隆，奥田武男，加崎英男，神谷充伸，河内伸子，川野繁貴，菊池則雄，桑野和司，須田章一郎，徳田拓士，当真武，中尾毅，長島秀行，野崎久義，野村浩貴，馬場将輔，藤田雄二，堀口健雄，三浦昭雄，峯一朗，宮地和幸，道津光生，山下博和，吉田忠生，四井敏雄，李仁輝，渡辺信（まこと）（50音順）

7. 学会賞に関するアンケート調査について

先の選挙の際に学会賞に関するアンケート用紙を同封し，会員の皆さんの学会賞に関するご意見を伺った。その結果52名の方から回答をいただいた。学会賞そのものに関する反対意見はごく少数（4名）であった。反対意見の中にも論文賞における問題点を指摘されるなど貴重なご意見もあった。残りは学会賞創設に肯定的なご意見であった。おおまかな結果を示すと，日本藻類学会賞と日本藻類学会論文賞の2賞を設けるという原案について賛成の方26名，どちらかと

言えば日本藻類学会賞のみの創設に賛成の方4名，どちらかと言えば論文賞のみの創設に賛成の方13名。賛成のご意見の中にも色々な提案を具体的にくださった方も多い。これらのご意見を踏まえて事務局では，来年の総会には具体案が出せるように努力したい。アンケートにご協力くださった方々に感謝申し上げます。

8. 植物分類学関連学会連絡会議

表記の第4回会合が植物学会の会場で開催された。藻類学会からは代表幹事として庶務幹事（堀口）が出席した。参加学会による合同シンポジウム開催の可能性が話し合われ，秋の植物学会の前日に関連集会として企画したらどうかという意見が出された。具体案はこれからであるが，藻類学会としてどのように対応していくかを今後議論する必要がある。植物分類学関係の団体として科研費の審査員選出の母体となるべきではないかとの意見が出され，そのことを文部省などにアピールしていくことなどが話し合われた。

訃 報

本会会員 小林 弘氏は去る 1996 年 7 月 12 日逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

日本藻類学会